

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県 多可町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	50.77	30.38	83.55	3,726

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,885	185.19	112.78
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,311	2.40	2,629.58

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成30年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・ 経常収支比率については100%以上となっているが、一般会計からの補助金に頼るところも大きいので、補助金額の増減に影響されるところではある。
- ・ 流動比率の値が類似団体と比較しても低く、また企業債残高対事業規模比率については高くなっているのは、本町が中山間地域のため処理人口が小規模であるが、当初の下水道管渠建設に多額な費用がかかり、その地方債借入額が高額であることが影響していると考えられる。
- ・ 経費回収率が100%未満となっているのは、本指標に占める資本費分が高いためである。
- ・ 汚水処理原価については、使用料単価150円/m³より高くなっている。今後は処理原価を低減させるため、統廃合等による維持管理費の削減が必要である。
- ・ 施設利用率については、人口減と水道の使用量減少により使用水量が減少しているため、本来は減少傾向である。本年度は不明水の増加により流入水量が増加したため指標の増加となった。今後は施設の統廃合を進めることにより指標は向上する見込である。
- ・ 水洗化率は97%と類似団体平均値より高い値となっている、今後も経営安定化のため水洗化の向上に努めたい。

2. 老朽化の状況について

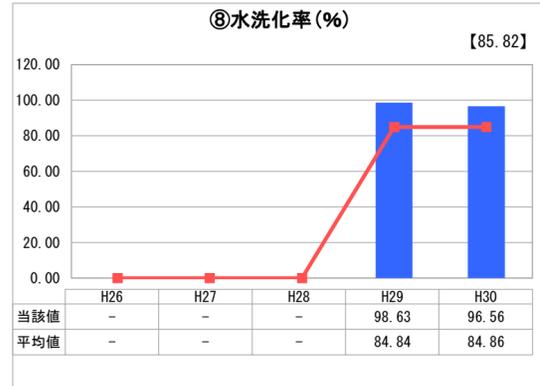
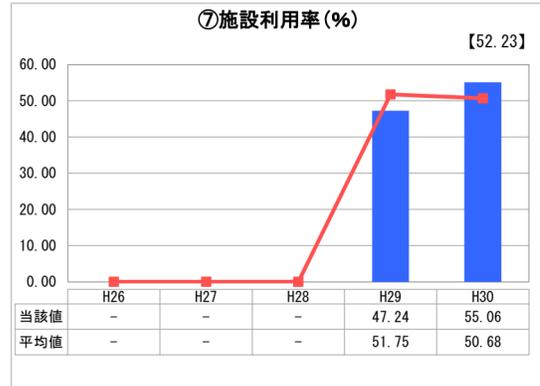
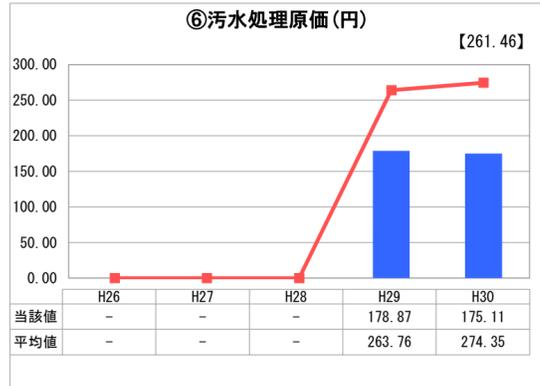
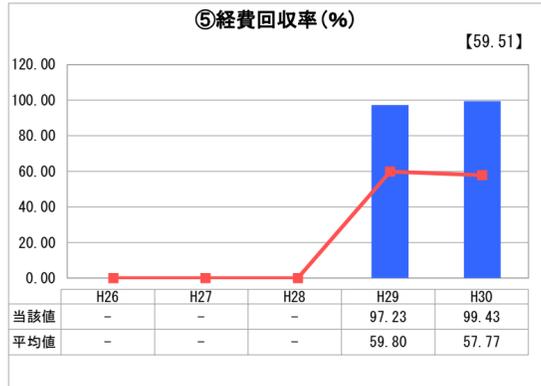
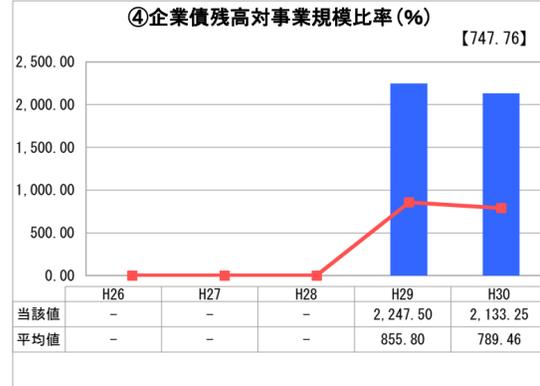
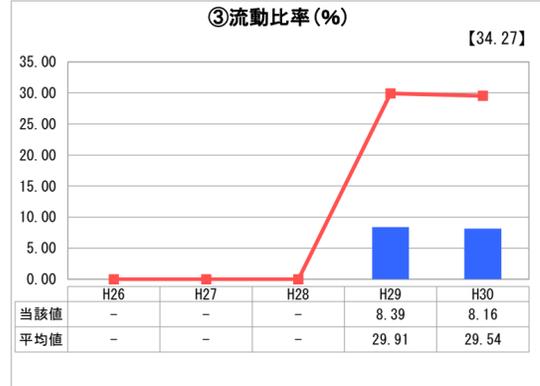
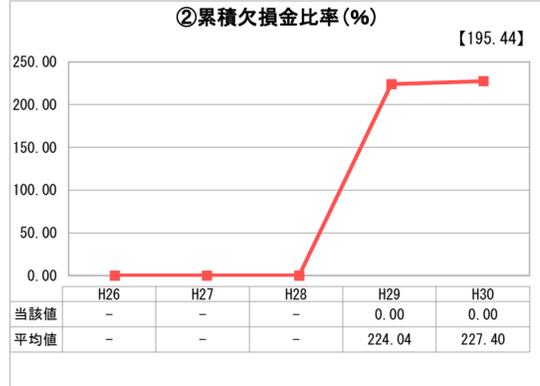
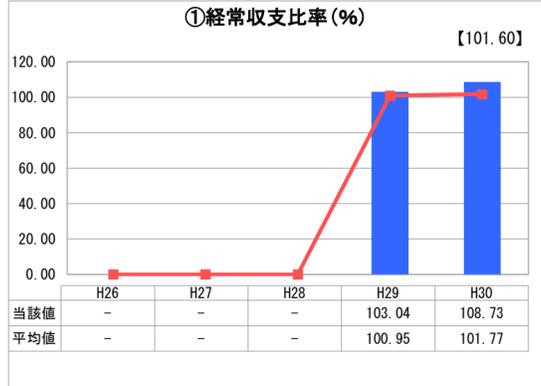
- ・ 管渠は、最も古いもので建設から30年経過程度で、直ちに老朽化の問題があるわけではないが、将来の改築更新に係る財源確保に関して考えていく必要がある。

全体総括

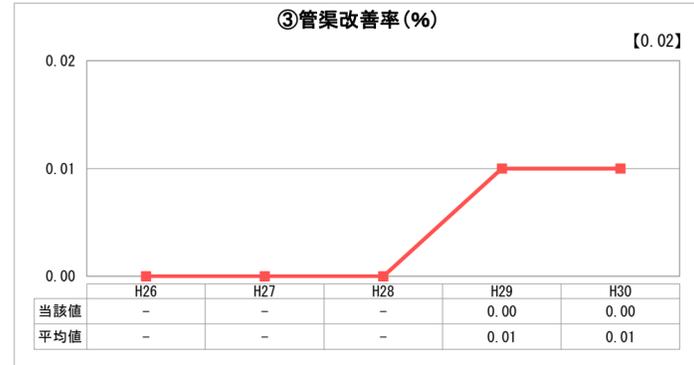
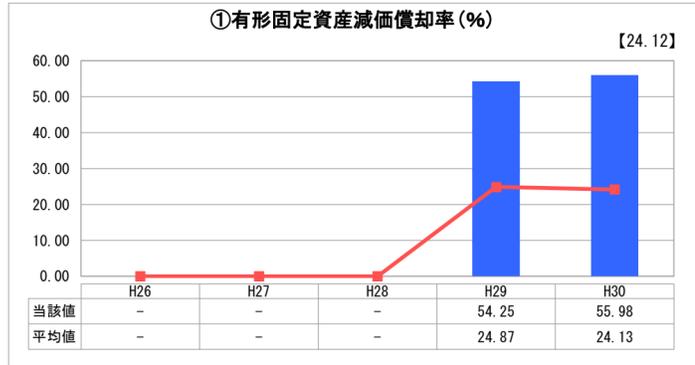
本事業は、処理人口6,400人に対し8処理区となっている。このことにより、施設建設の費用に係る地方債借入が多額になったこと、また、小規模処理場であるため維持管理費が割高であることが経営を圧迫している。

今後は、処理能力に余裕がある施設について、極小規模処理施設との統廃合を図り、経営改善を進めることが重要である。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。